

臨床宗教師「一緒に地獄に落ちる存在」

龍谷大大学院

「臨床宗教師」を養成している龍谷大大学院は10日、京都市下京区の龍谷大宮学舎で特別講義を行った。臨床宗教師研修の先鞭をつけた東北大大学院の谷山洋三准教授（臨床死生学）が「スピリチュアルケア」をテーマに講演。一般を含む約40人が聴講した。

臨床宗教師は、宗教や宗派の違いを超え、被災地や医療現場で傾聴を通じて心のケアを行う宗教者。東日本大震災を機に東北大大学院が平成24年度に養成を始め、龍谷大大学院も26年度に講座を設けた。修了者は両校で計102人。

東北大大学院・谷山准教授が講演

谷山准教授はスピリチュアルケアについて「支えとなるものを再確認・再発見すること、生きる力を取り戻す援助やセルフケア」と定義。「相手の世界観に入り、話したいことを話してもらおう。全身を耳にして、あるがままに聴かねばならず、狙ってできるものではない」と強調した。

また、臨床宗教師が期待される理由を「自分が思い描く地獄に、助かると信じる宗教者が一緒に落ちてくれるからだ」と分析。臨床宗教師を志す学生僧侶には「傾聴している自分がどんな感情なのか気づけるよう、トレーニングすることもある」と助言した。

（小野木康雄）



龍谷大大学院の特別講義で講演する谷山洋三・東北大大学院准教授